

猫

お選びなされ

犬



A microscopic image showing numerous cells, likely yeast or bacteria, with bright, glowing nuclei. The cells are scattered across the field of view. Overlaid on the center of the image is the Japanese text "これは何？" (What is this?) in a red, sans-serif font.

これは何？

AIBOさま
食後のリラックスタイム





ははーっ



お犬さま!



家光

綱吉

綱重

家綱

綱吉

家光

老中たちは
京都から宮將軍を
迎えようとした

当時35歳

1680年 40歳で逝去

綱吉

綱重

家綱

2年前に逝去

クーデター

家光

綱吉

綱重

家綱

綱吉

綱吉のつらさ

「想定外の将軍」

しかも 35歳



だから攻めに出た！

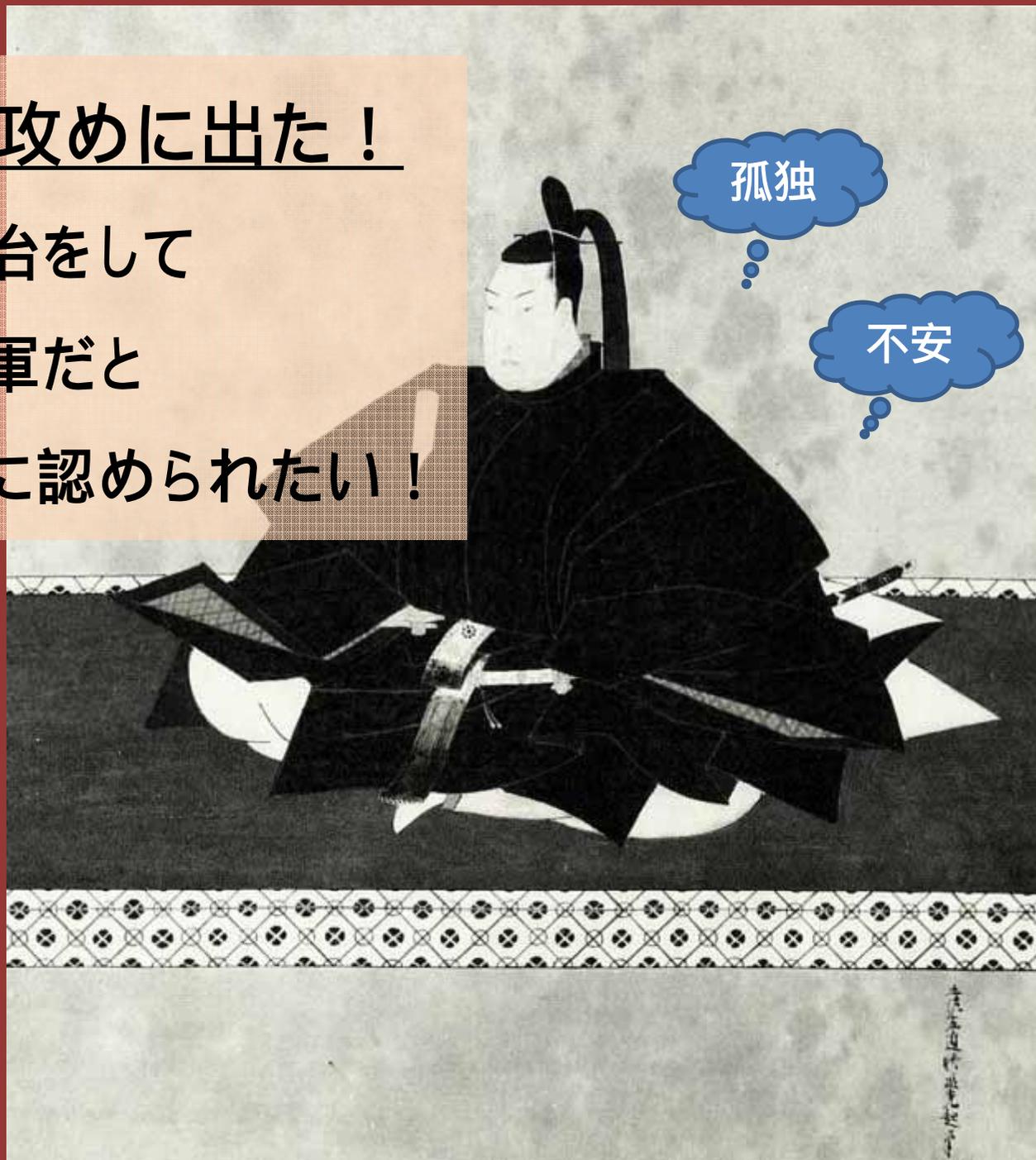
いい政治をして

いい将軍だと

みんなに認められたい！

孤独

不安



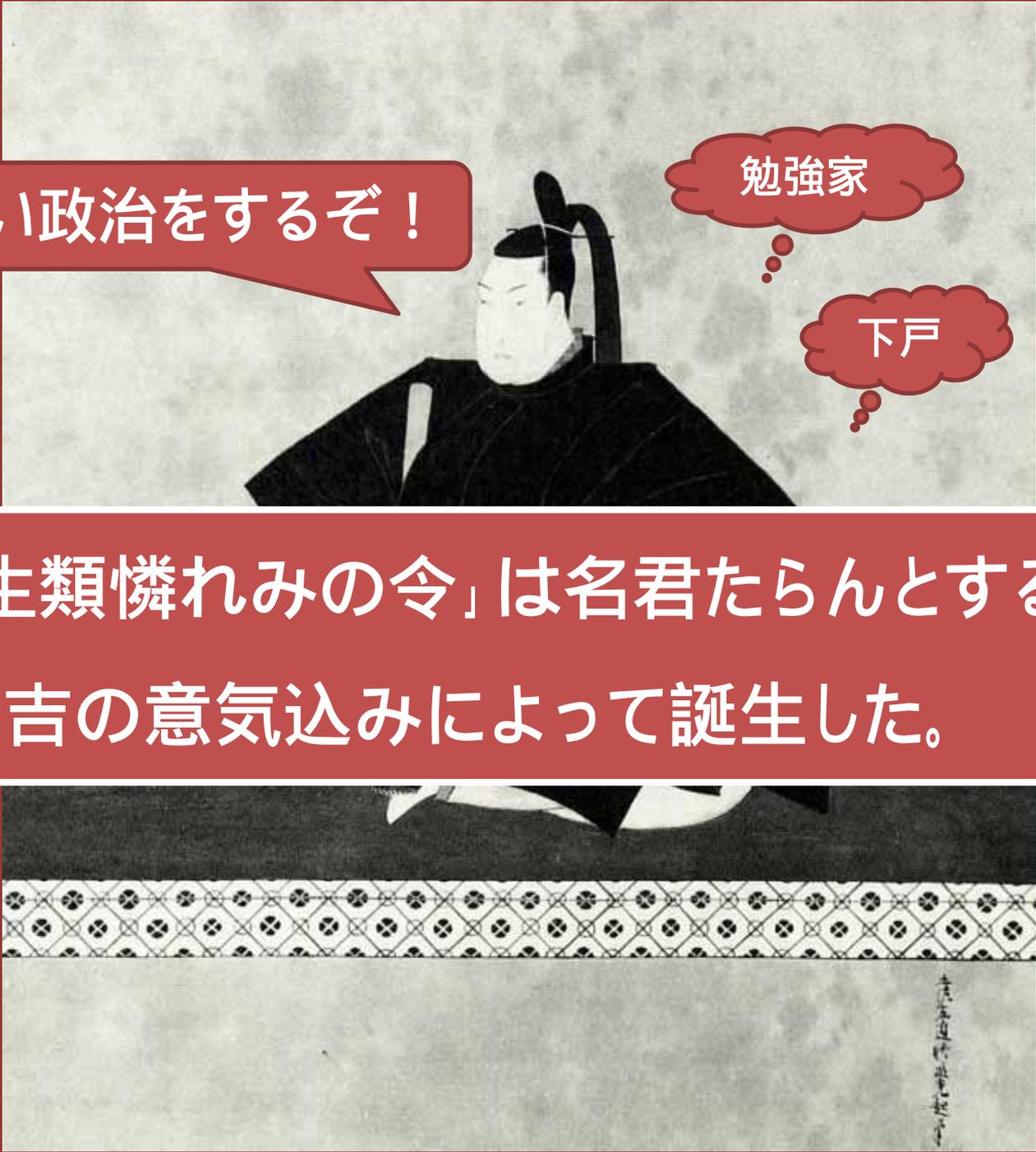
去法五道時世七起

新しい政治をするぞ！

勉強家

下戸





新しい政治をするぞ！

勉強家

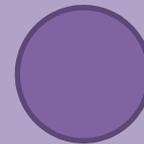
下戸

「生類憐れみの令」は名君たらんとする
綱吉の意気込みによって誕生した。



巷のウワサ

隆光が、犬をだいじにすれば跡継ぎに恵まれると綱吉マザーに進言したせいで、こんな悪法が始まったのだ



いいえ、隆光さんは**無実**です！

1685年



勤務先：

1685年まで 大和長谷寺

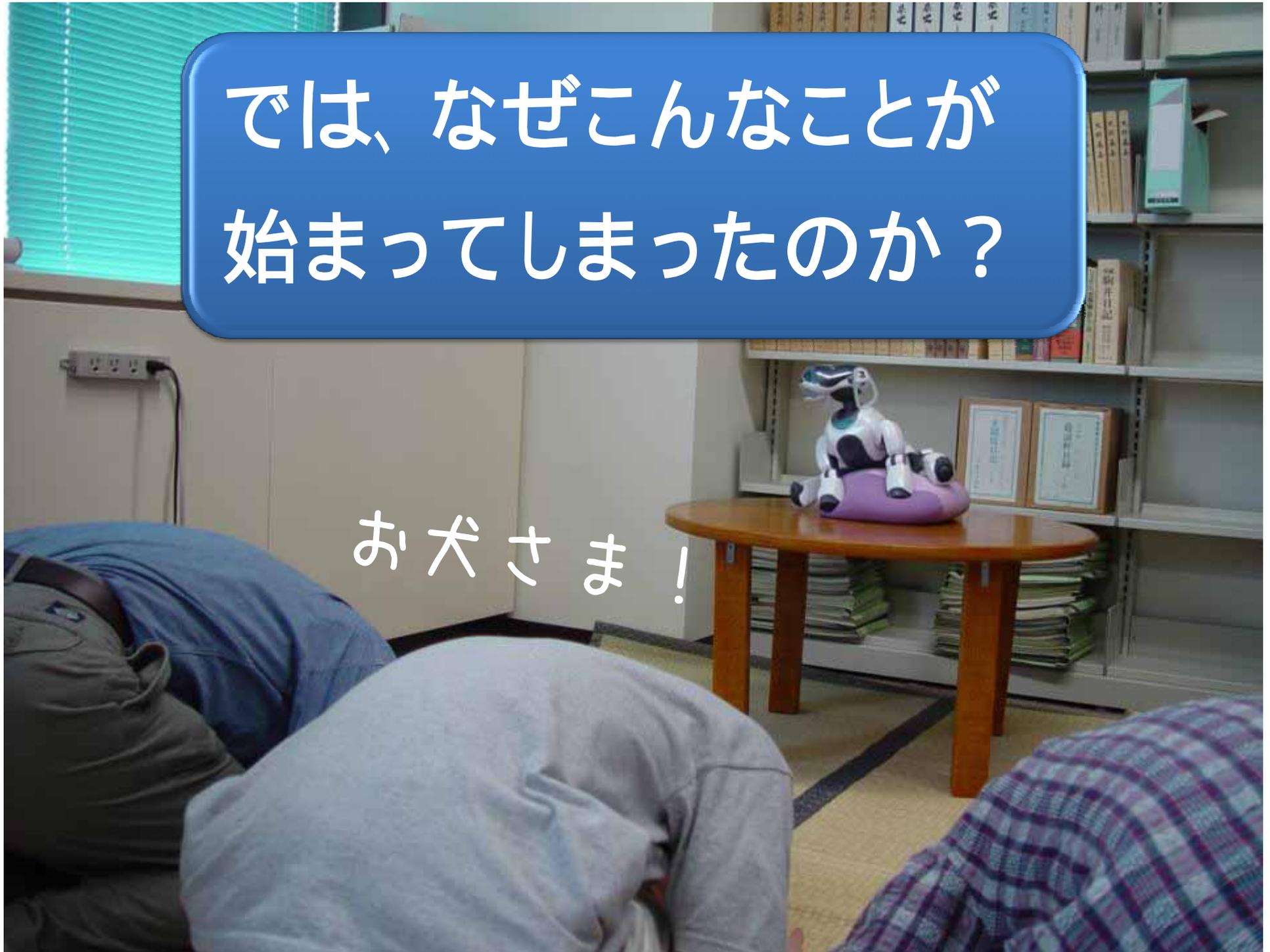
1686年から 江戸知足院

生類憐れみ関係の発令回数

	犬	馬	鳥	その他	計
貞享 2	1	1			2
3		3			3
4	6	3		9	18
元禄 1				1	1
2				2	2
3			2	2	4
4	1		1	2	4
5	3		2	2	7
6	1		1	2	4
7	9	2	4	4	19
8	5		3	3	11
9	2		2	2	6
10	3		1		4
11			1	1	2
12			2		2
13			2	2	4
14			1	1	2
15	1	1	2	2	6
16	1				1
宝永 1		1	1	2	4
2		2	5	2	9
3		1	2	1	4
4			4	4	8
5		3	3	1	7
6			1		1
計	33	17	40	45	135

では、なぜこんなことが
始まってしまったのか？

お犬さま！



綱吉自身が語る生類憐れみの令の意図

元禄七（一六九四）年十月

以前から仰せ付けている生類憐れ
みの儀は、一通りではない深い思
し召しがあつてのことなのである。
それは世の中を治めてゆくために、
下々の者が仁心を専らとして少し
も曲がつたことをせず、万一了簡
（りょうけん）違いの者があつて
も、取り繕わずにすなおに申し上
げるようにとの思し召しなのだ。

〔元禄七年十月 江戸城黒書院溜に諸大名や
役人を集めてなされた綱吉の説諭〕

〔柳営日次記 〇りゅうえいひなみき〕〕

綱吉の意図

大まじめ

下々の者に
仁の心をはぐくむため



しかし
江戸の庶民たちは
このお説教を
ありがたく受け入れるほど
無垢でも素直でもなかった

大まじめ



犬わけ水 町人の抵抗

元禄七（一六九四）年閏五月

町中で「犬わけ水」と桶や柄杓

（ひしゃく）に書いたり、あるい

は犬という字を紋所にした揃いの

羽織を番人に着せて警備させてい

ると聞いた。桶や柄杓に書いたり、

揃いの羽織を着せたりすることは、

即刻やめよ。水を準備したり番人

を置いたりすることも、目立たな

いようにおこなえ。ただし、犬は

阻末にせずに、心を配っていた

町中で「犬わけ水」と桶や柄杓
（ひしゃく）に書いたり、あるいは
犬という字を紋所にした揃いの
羽織を番人に着せて警備させてい
ると聞いた。桶や柄杓に書いたり、
揃いの羽織を着せたりすることは、
即刻やめよ。水を準備したり番人
を置いたりすることも、目立たな
いようにおこなえ。ただし、犬は
粗末にせず、心を配っていた
わつてやるのだぞ。

〔元禄七年閏五月 江戸の町に出された触れ

江戸町触集成』三〇九四号）

町人：犬同士が喧嘩している場合は、いかが致しましょう？

まさか犬に法令を読み聞かせるわけにも、ねえ～

綱吉：う。。。 み、水でもかけて引き分けよ！

町人：へへ～い。んじゃ、街角に「犬分け水」を設置いたしやすね。
あと、番人も置きます。そうそう、犬マークのお揃いの羽織もあつ
らえやしょう。 將軍さまをからかうって、たのしいねえ

綱吉：ふ、ふざけるなっ！ 犬分け水も羽織も即刻停

止停止！ 頼むからマジメにやってよお。

政治の歯車が軋み出す

理想に燃える、でも
無経験な孤独な将軍

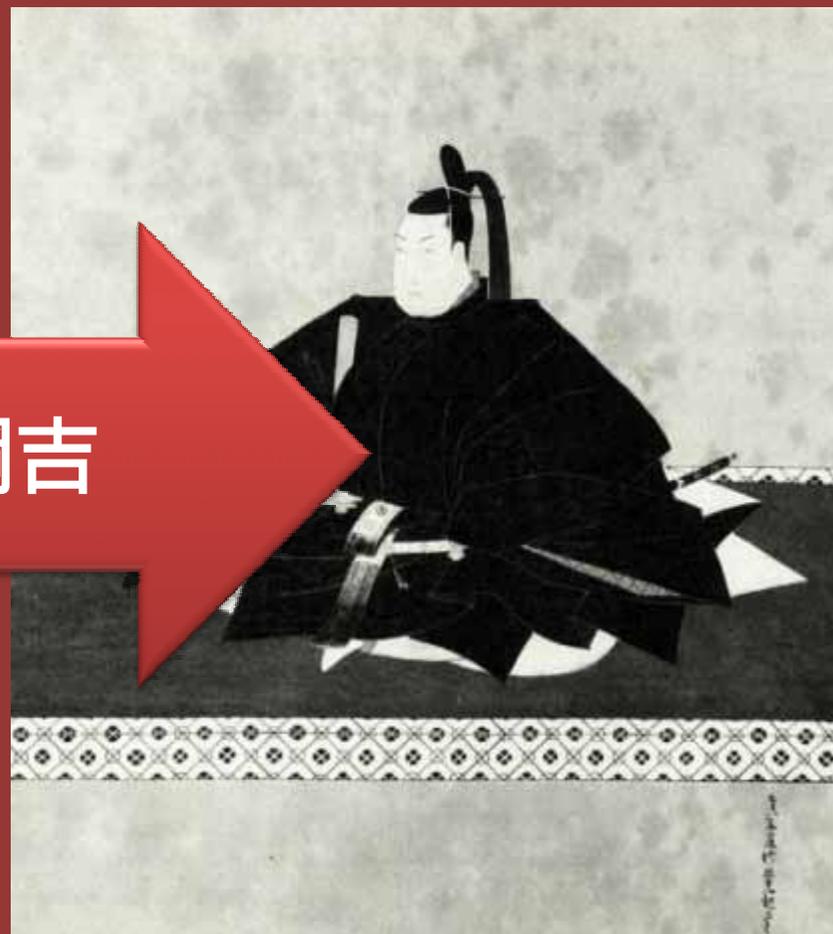
元禄の繁栄に支えられた
たくましき町人たち



町人たちの抵抗はエスカ
レートし、わざと傷つけられ
た犬が江戸の町に増える

追いつめられる綱吉

やーい、取り締
まれるもんなら
つかまえてみる



どうする？

この表に
 綱吉が出した答えを
 見つけました。

生類憐れみ関係の発令回数

		犬	馬	鳥	その他	計
貞享	2	1	1			2
	3		3			3
	4	6	3		9	18
元禄	1				1	1
	2				2	2
	3			2	2	4
	4	1		1	2	4
	5	3		2	2	7
	6	1		1	2	4
	7	9	2	4	4	19
	8	5		3	3	11
	9	2		2	2	6
	10	3		1		4
11			1	1	2	
12			2		2	
13			2	2	4	
14			1	1	2	
15	1	1	2	2	6	
16	1				1	
宝永	1		1	1	2	4
	2		2	5	2	9
	3		1	2	1	4
	4			4	4	8
	5		3	3	1	7
	6			1		1
計		33	17	40	45	135

犬についての
法令が消える！

1685年

point

1709年

生類憐れみ関係の発令回数

	犬	馬	鳥	その他	計
貞享 2	1	1			2
3		3			3
4	6	3		9	18
元禄 1				1	1
2				2	2
3			2	2	4
4	1		1	2	4
5	3		2	2	7
6	1		1	2	4
7	9	2	4	4	19
8	5		3	3	11
9	2		2	2	6
10	3		1		4
11			1	1	2
12			2		2
13			2	2	4
14			1	1	2
15	1	1	2	2	6
16	1				1
宝永 1		1	1	2	4
2		2	5	2	9
3		1	2	1	4
4			4	4	8
5		3	3	1	7
6			1		1
計	33	17	40	45	135

なぜ？

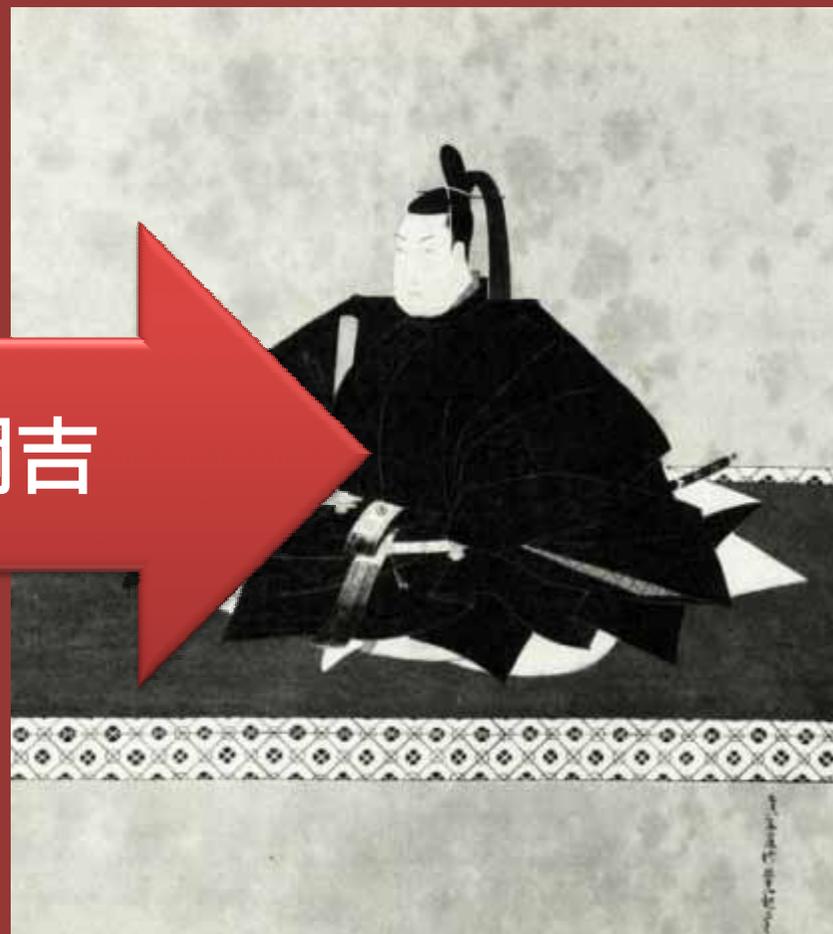
生類憐れみ令の根幹をなすはずの
お犬さま関係の法令は、
道なかばにして、なぜ姿を消したのか？

みんなが守るようになった？

町人たちの抵抗はエスカ
レートし、わざと傷つけられ
た犬が江戸の町に増える

追いつめられる綱吉

やーい、取り締
まれるもんなら
つかまえてみる





答え

巨大犬小屋作戦発動！

江戸市中の犬は全て
中野のお犬小屋に収容すべし！

どうだ、愚民ども。これ
でもう犬殺しも犬分け水
もできないだろお。
ほっほっほ



無茶な解決法ではあった。

それでも、これで事態が収束すれば
良かったのだけれど・・・

綱吉さーん。カラスがスズ
メを襲ってますう。これっ
て、生類憐れみ違反じゃ？

鳥の島流し

元禄四（一六九一）年十月

新島へ鳶鳥（とびからす）九百五十隻を放たる。これにつきそひてまかる鳥医・徒目付（かちめつけ）以下の賤吏に銀をたまふ。

（徳川実紀『元禄四年十月二十一日条』）

以後、毎年恒例の行事となる

犬についての
法令が消える！

鳥についての
法令が増える

1685年

point

point 2

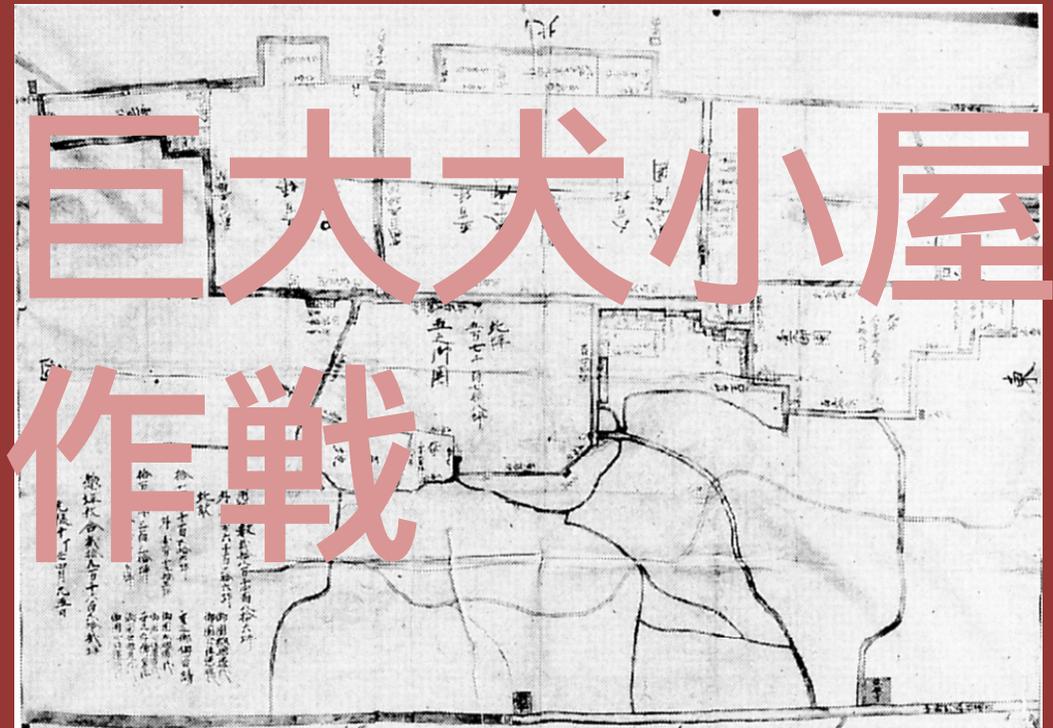
1709年

生類憐れみ関係の発令回数

	犬	馬	鳥	その他	計
貞享 2	1	1			2
3		3			3
4	6	3		9	18
元禄 1				1	1
2				2	2
3			2	2	4
4	1		1	2	4
5	3		2	2	7
6	1		1	2	4
7	9	2	4	4	19
8	5		3	3	11
9	2		2	2	6
10	3		1		4
11			1	1	2
12			2		2
13			2	2	4
14			1	1	2
15	1	1	2	2	6
16	1				1
宝永 1		1	1	2	4
2		2	5	2	9
3		1	2	1	4
4			4	4	8
5		3	3	1	7
6			1		1
計	33	17	40	45	135

邪魔者は江戸の外へ！

共通の発想



新島へ鳶鳥（とび）からす（九百五

十隻を放たる。これにておきそひて

まいる鳥医（かちめり）の島流し

け）以下の賤吏に銀をたまふ。

綱吉は死ぬまで、生類憐れみ令を貫いた。

その試みは

まったくの愚行に過ぎなかったのか？

八十一歳の老武士が記した回顧談

一七二二年執筆

六七十年前までは奉公人が少しでも悪事を働けば、その家で手討ちにしたものじゃ。逃亡すれば捜し出して刀の試し物にしたので、一ヶ月に二度三度はあちこちの家で試し物があり、下々の作法もよく、刀や脇差の切れ味をみるのも便利であつた。それが近年は、悪事を働くものがおらぬのか、あゝは主人が慈悲深くなつたのか、

六七十年前までは奉公人が少しでも悪事を働けば、その家で手討ちにしたものじゃ。逃亡すれば捜し出して刀の試し物にしたので、一ヶ月に二度三度はあちこちの家で試し物があり、下々の作法もよく、刀や脇差の切れ味をみるのにも便利であつた。それが近年は、悪事を働くものがおらぬのか、あるいは主人が慈悲深くなつたのか、とんとなくなつてしまつたことよ。

昔は大身小身ともに、振る舞いや夜噺（よばなし）で集まった折の話題は、かつての合戦の話、先祖の手柄、あるいは当節の武道武芸の品定め、刀脇差についての蘊蓄、喧嘩口論の顛末、男色の噂、やわらかいところで茶の湯の話、せいぜいそんなものであった。それが近頃はすっかり変わってしもうて、食い物の話、遊興の話や損得勘定について、分別顔をした者は立身の自慢話、おとなしい者は碁や将棋や俳諧、若者は浄瑠璃・三味線、役者の評判といった具合で、武道の話題などまったく出ない。

昔は一年に五度も七度も、それ刀よこせ鑓よなどと言い、下々も刀を差して尻端折り（しりっぱしより）して騒ぐことがあつたものだけけれど、近年はそれ刀よ鑓よと言うほどの騒ぎが全くないので、今の若いもんは家の中では丸腰で、ずいぶんと不用心なありさまだ。まったく太平の世になつたものだなあ。

いずれも『むかしむかし物語』より



1652-1662年



1685

生類憐れみの令

1709



1722年

『むかしむかし物語』執筆
「六、七十年前までは…」

刃傷沙汰のない
太平の世を導くのに
綱吉の施策も
どこかで貢献したのでは？

